

小 学 校

令和7年度

教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
V	研究構想図	4
VI	研究の内容	5
	1 アンケートによる意識調査	5
	2 検証授業	7
	(1) 検証授業 I	7
	(2) 検証授業 II	10
	(3) 検証授業 III	13
VII	研究のまとめ	16

研究主題

「これがいい」「こうしたい」が生まれる図画工作 ～子供の視点に立った授業づくりの工夫～

I 研究主題設定の理由

小学校学習指導要領解説図画工作編には、「創造性を重視する図画工作科の特質を踏まえ、一人一人の児童の創造性に着目しつつ、それ自体が文化や生活、社会そのものをつくり出す態度の育成につながるという視点を大切にしている。」と示されている。このことは、一人一人の児童が備えている創造性を重視する点において、東京都教育施策大綱（令和7年3月）で「東京の目指す教育」のポイントとして示されている「子供たち一人一人が個性や強みを伸ばして、自ら伸びようとする意欲を高め、自分らしく成長できる」にもつながるものである。本研究では、この「一人一人の児童の創造性」がより豊かに発揮される教育の実現を目指し、令和7年度教育研究員の共通研究テーマである「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」を図画工作科において具現化するための方策を探ることとした。

上記の背景を踏まえ、研究員所属校での実践をもち寄って検討を重ねる中で、「児童が心から取り組みたいと思って活動できているか」、「教師が主導して表現活動に導いてしまっている場面はないか」といった課題が明確になった。

これらの課題の解決に向け、授業づくりに取り組むに当たって「育てたい児童の姿」を次のように整理した。

【本研究で育てたい児童の姿】

- ・自分で主題を見付け、「つくり、つくりかえ、つくる」活動の中で、自分にとっての意味や価値をつくり出す姿（自ら追求する姿）
- ・感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な見方・考え方で捉え、自分のイメージをもって活動する姿（造形的な見方・考え方を働かせ、活動する姿）

上記の本研究で育てたい児童の姿を、児童自身の視点から捉え、「これがいい」と主体的に選択・決定し、「こうしたい」という思いを実現する姿とし、研究主題を「『これがいい』『こうしたい』が生まれる図画工作」と設定した。さらに、学びの主体である児童を中心に据えた授業づくりを進めるため、教師は一人一人の児童の思いや行動を想像し、児童の視点から授業を捉え直し改善に取り組む必要があると考えた。そこで、副主題を「子供の視点に立った授業づくりの工夫」と設定した。

II 研究の視点

研究主題に迫るため、研究員所属校での実践を基に、児童の視点に立って題材を捉え直すための具体的な視点を検討した。本研究において「児童の視点に立つ」とは、教師が児童の視点を通して題材を捉え直すことである。そのために教師は、図1のように、図画工作科の活動における児童の思いや行動を想像し、児童の視点に立ち授業を行うことが大切であると考えた。

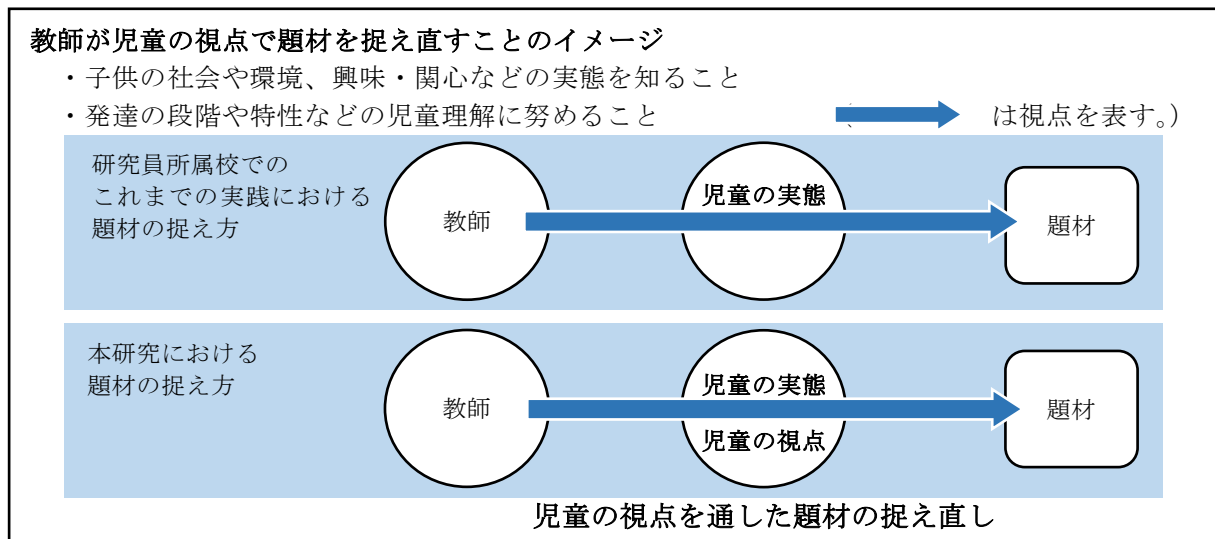


図1 題材を捉え直す視点を示した図

また、児童の視点に立ち、題材を捉え直すため、授業づくりにおける具体的な視点を以下の3点に整理した。

【授業づくりの視点】

視点1 題材の提示

- ・児童の社会や環境、興味・関心、発達の段階や特性に即した題材の設定
- ・活動への見通しや意欲をもつことができる導入の工夫
- ・イメージやアイデアを引き出すための教師からの声掛けや児童同士の考えの共有

視点2 環境づくり

- ・題材に合わせた活動場所や材料や用具の配置の検討
- ・既習事項を生かすことができる図工室環境
- ・思い付いたことを、安心して試したり表したりすることができる心理的安全性の保障

視点3 学びの過程の価値付け

- ・学びを振り返る場の設定による、自己の学びの過程の価値付け
- ・活動の適切な見取りや、対話を通じた児童との関わり
- ・学びの過程の価値付けや、活動が停滞したり困難を感じたりしている児童に対する適切な支援

さらに、研究員所属校での実践を基に、図画工作科の授業において児童が主体的に選択・決定したり、思いを実現したりするときの様子を、「『これがいい』『こうしたい』が生まれるときの表出要素（以下、「表出要素」とする。）」として次のように分類した。

表1 「これがいい」「こうしたい」が生まれるときの表出要素

1	行為（感触や活動など、表現する過程で取り組む行為に夢中になる。）
2	愛着（自己の表現や取り組んでいるテーマ、活動等に思い入れをもつ。）
3	世界に入り込む（自己の思い描くイメージや世界観に没入する。）
4	ひらめき（行為、活動、イメージや友達等との会話から新たな気付きや発見をする。）
5	日常との関連（自分の経験や普段の生活等と表現をつなげる。）
6	表したいことを見いだす（自分が表したいことを見付ける。）
7	他者との関わり（誰かと一緒に味わいたい、誰かを喜ばせたい等、他者に対する思いを表現や活動に反映する。）
8	友達との協力（友達と一緒に取り組むことにより、自分ではできないことができたり、イメージやアイデアが広がったりする。）
9	こだわり（自分の思いをもち、使用したい材料・用具や表し方を試行錯誤し、追求する。）

これらの表出要素を、授業づくりや児童の活動を受けとめる中で、授業づくりの視点と組み合わせ活用していく。以上の授業づくりの視点と、表出要素を相互に関連させながら教師が児童の視点に立って授業を捉え直し、研究主題に迫ることとした。図2は、研究主題に対する教師の取組と児童の様子との関係性を整理したものである。

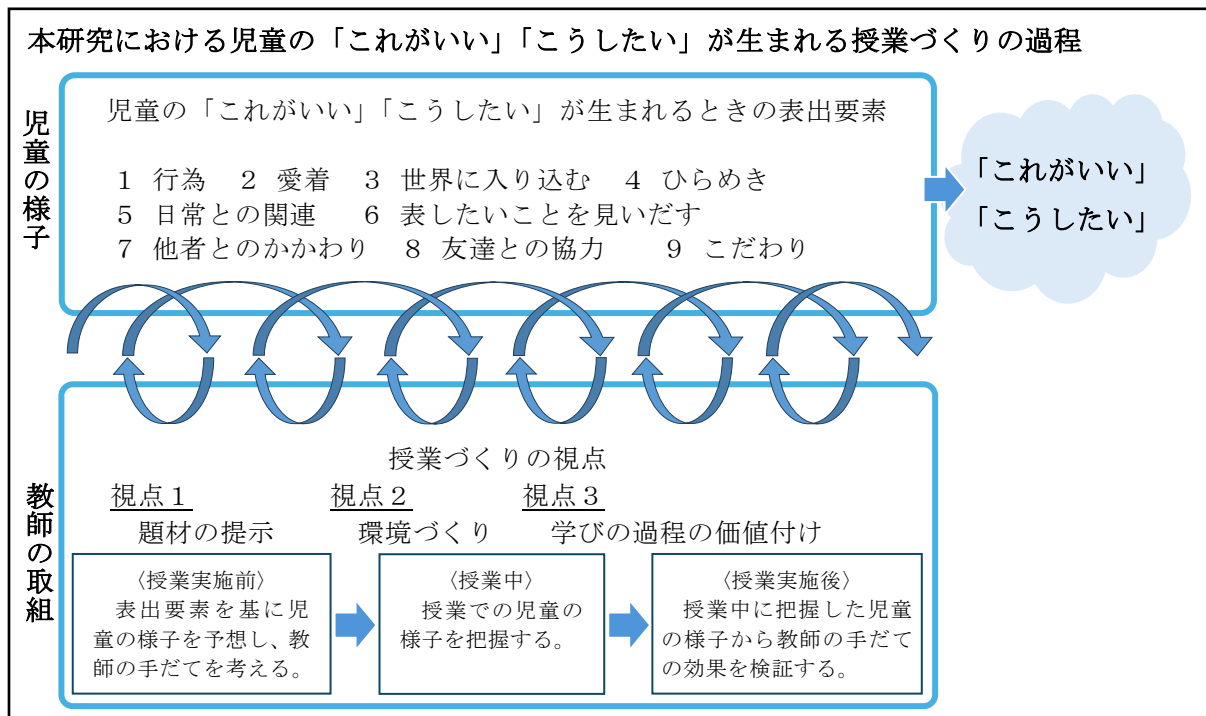


図2 研究主題に対する教師の取組と児童の様子との関係性を示した図

III 研究の仮説

児童の視点に立ち、題材の提示、環境づくり、学びの過程の価値付け等を工夫することにより、児童が造形的な見方・考え方を働かせ、「これがいい」「こうしたい」と主体的に学ぶことのできる授業を行うことができるだろう。

IV 研究の方法

本研究では、以下のとおり調査研究と検証授業により、研究の仮説を検証した。

調査研究	<ul style="list-style-type: none"> 研究主題や授業づくりの視点に関する児童の実態を調査した。 調査時期 令和7年9月16日(火)～令和7年9月29日(月) 調査方法 研究員所属校の児童2,459人を対象としたアンケート調査
検証授業	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりの視点に基づく手だての効果を検証した。 検証授業は、次の(1)から(3)のとおり実施した。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 検証授業における授業づくりの視点の整理 (2) 表出要素に基づく児童の具体の姿を予想し、指導計画を作成 (3) 検証授業における授業づくりの視点の効果を検証

V 研究構想図

【共通研究テーマ】

全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

【研究主題】 「これがいい」「こうしたい」が生まれる図画工作

～子供の視点に立った授業づくりの工夫～

【研究仮説】

児童の視点に立ち、題材の提示、環境づくり、学びの過程の価値付け等を工夫することにより、児童が造形的な見方・考え方を働かせ、「これがいい」「こうしたい」と主体的に学ぶことのできる授業を行うことができるだろう。

【小学校学習指導要領図画工作（平成29年告示）より】

表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすることができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。

【小学校学習指導要領解説図画工作編（平成29年告示）より】

○造形的な見方・考え方

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

【東京都教育施策大綱】

（東京都 令和7年3月）

- 東京の目指す教育
 - ・ 誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育
- 未来の東京に生きる子供の姿
 - ・ 自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる
 - ・ 他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する

【東京都教育ビジョン（第5次）】

（東京都教育委員会 令和6年3月）

- 子供の意欲を引き出す「学び」
 - ・ 子供一人ひとりが、何のために学ぶのか、学んだことがどう役立つのかを実感、理解
 - ・ 子供一人ひとりの学習の進捗や興味・関心の度合い、発達の段階等に応じた学びを追求
 - ・ 子供一人ひとりの状況を適切に把握し、個に応じた教育を不断に改善

【育てたい児童像】

「これがいい」と自ら主体的に選択・決定し、「こうしたい」という思いを実現するために主体的に学ぶことができる児童



【研究の視点】

子供の視点に立った授業づくり

児童の「これがいい」「こうしたい」という思いを引き出すための工夫

視点1

「題材の提示」

題材設定、導入

視点2

「環境づくり」

場の設定、心理的安全性

視点3

「学びの過程の価値付け」

見取り、支援、振返り

VI 研究の内容

1 アンケートによる意識調査

本研究主題及び授業づくりの視点に関する児童の実態を把握するため、研究員所属校児童を対象として意識調査を実施した。表2から表5は、その結果をまとめたものである。

- ・実施時期：令和7年9月16日（火）～令和7年9月29日（月）
- ・対象：研究員所属校児童2,459人

表2 研究主題に関する意識調査

研究主題に関して			
	設問内容〈質問形式〉	回答 ※記述については、主な回答を抜粋	
1	活動の中で、「これがいい」「こうしたい」と思うときはありますか。【二者択一式】	はい	84%
		いいえ	16%
2	「はい」と答えた人は、どのようなときに「これがいい」「こうしたい」と思いますか。【複数選択】	材料の触り心地や活動が気に入って、繰り返し○したいとき	20%
		表したものが自分なりに気に入ったとき	35%
		自分が表したいことを見つけたとき	38%
		作品の世界に自分が入りこんだとき	30%
		何かを発見したとき	40%
		図工で学んだことと、普段の生活とのつながりを感じたとき	8%
		だれかに見せたいと思ったとき	82%
		友達と協力して表しているとき	39%
3	自分の表現がよりよくなるように、考えたり、工夫したりしていると思いますか。【四件法】	そう思う	57%
		どちらかといえばそう思う	38%
		どちらかといえばそう思わない	4%
		そう思わない	1%

表2の設問1において、活動の中で「これがいい」「こうしたい」と思うときがある児童が8割を超えている。児童が「これがいい」「こうしたい」と思う場面は、「だれかに見せたいと思ったとき」や「自分の好きなものを生かすことができそうなとき」、「何かを発見したとき」、「友達と協力して表しているとき」など多様である。このことから、児童の「これがいい」「こうしたい」との思いが生まれるには、教師が多様な児童の実態を理解し、活動への期待感や達成感等を高める工夫を意図的に行う必要があることが推察できる。

表3 題材の提示に関する意識調査

題材の提示に関して			
	設問内容【質問形式】	回答 ※記述については、主な回答を抜粋	
1	活動の中でわくわくしたことはありますか。【二者択一式】	はい	93%
		いいえ	7%
2	(前の質問で、「はい」と答えた児童のみ回答) 授業の中でどのようなときに、わくわくしましたか。【複数選択】	授業の最初	33%
		授業の途中	69%
		授業の最後（鑑賞）	14%
3	それは、どのような場面でそう思いましたか。【記述式】	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデアが浮かんだとき ・作品が完成に近づいたとき ・新しい用具や材料を使えるとき ・友達と協力して活動するとき 等 	

表3の設問1から、9割以上の児童が、活動の中でわくわくすると感じており、そのうち6割が授業の途中に感じている。また、わくわくする場面についての記述からは、「アイデアが浮かんだとき」や「作品が完成に近づいたとき」など、活動に伴って自分の思いの変化を

実感していることが分かる。題材を設定する際には、活動に対する児童の期待感や達成感等を高め、主体的な活動を促せるよう題材の提示について工夫する。

表4 環境づくりに関する意識調査

環境づくりに関して			
	設問内容【質問形式】	回答 ※記述については、主な回答を抜粋	
1	図工の授業で、自分が考えたり、思い付いたりしたことを安心して表すことができますか。【四件法】	できている	53%
		どちらかといえばできている	37%
		どちらかといえばできていない	8%
		できていない	2%
2	上記で選んだ理由を教えてください。【記述式】	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のアイデアを自由に表現することができる ・自分の作品に自信がもてる ・友達からのアドバイスで、作品をよくすることができた ・先生が用具の使い方を教えてくれる 等 	
3	図工室は自分の考えや思いを表すための材料や用具が使いやすい環境ですか。【四件法】	そう思う	73%
		どちらかといえばそう思う	24%
		どちらかといえばそう思わない	2%
		思わない	1%
4	授業の中で、自分の作品が友達に認められる場面はありますか。【二者択一式】	はい	89%
		いいえ	11%

「安心して表すことができますか。」との問いに対し、「できている」「どちらかといえばできている」と回答した児童の割合は9割だった。安心して活動できていると答えた児童は、その理由として自分の表現に関すること、友達や先生との関わりについて言及している。また、自分の作品が友達に認められていると感じている児童の割合は、約9割だった。活動において、材料や用具を使いやすく整えるだけでなく、他者との関わりも含めて環境づくりを行う必要があると考える。

表5 学びの過程の価値付けに関する意識調査

学びの過程の価値付けに関して			
	設問内容【質問形式】	回答 ※記述については、主な回答を抜粋	
1	自分の考えや思いを表すときに悩んだり、困ったりしたことはありますか。【二者択一式】	はい	63%
		いいえ	37%
2	(前の質問で「はい」と答えた児童のみ回答) 悩んだり、困ったりしたときはどうしていますか。【複数選択】	自分の力で解決する。	33%
		友達の活動の様子を見る。	41%
		友達に相談する。	31%
		先生からアドバイスをうける。	30%
		I C Tなどを活用する。	5%
		あきらめる。	4%
3	友達や先生と、自分の考えや思いを伝え合うことで、表したいことが見付かったり、表現がよりよくなったりしたことがありますか。【二者択一式】	はい	55%
		いいえ	45%
4	表しているときに、先生にしてほしいことはありますか。【二者択一式】	はい	14%
		いいえ	86%

表5の設問1からは、6割以上の児童が活動中に悩んだり、困ったりした経験があることが分かる。また、設問2からは、それらを解消するため自力での解決に取り組んだり、友達の様子から解決へのヒントを得たりしていることが分かる。友達との意見の伝え合いが表現の高まりにつながっている実感をもっている児童の割合は55%であり、協働することのよさを十分に実感できていない実態がある。また、これらの調査で得た児童の視点を基に、児童

が主体的に学ぶことのできる授業づくりに向けた「題材の提示」「環境づくり」「学びの過程の価値付け」の3点の工夫の効果を検証する。

2 検証授業

(1) 検証授業 I

ア 授業の概要等

授業の概要と研究主題との関連
<p>高学年における表出要素として、本題材では、「表したいことを見いだす」「友達との協力」に重点をおき、授業を計画した。この重点に合わせ、場所や空間の特徴を生かしつつ、試行錯誤して造形活動に取り組むことのできる段ボールを材料とした。児童同士の協働を誘発する大きな段ボールを用意するとともに、作品を一箇所に集め鑑賞の場を設けることにより、それぞれの表現のよさに気付くきっかけとした。</p>

題材名	「段ボール・ワールド」 A表現（1）ア（2）ア、B鑑賞（1）ア共通事項（1）ア、イ		
対象	小学校第5学年		
題材の目標	<p>○「知識及び技能」に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で段ボールを切ったり、つなげたり、組み合わせたりする感覚や行為を通して材料や場所、空間の特徴を理解する。 活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの段ボールについての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫してつくる。 <p>○「思考力・判断力・表現力等」に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 段ボールや展示場所などの特徴を基に造形的な活動を思い付き、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながら、どのように活動するか考える。 自分たちの活動の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。 段ボールの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつ。 <p>○「学びに向かう力、人間性等」に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。 		
評価規準	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
	<p>自分で段ボールを切ったり、つなげたり、組み合わせたりする感覚や行為を通して材料や場所、空間の特徴を理解しようとしている。</p> <p>活動に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの段ボールについての経験や技能を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫している。</p>	<p>段ボールの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、段ボールや展示場所などの特徴を基に造形的な活動を思い付き、構成したり周囲の様子を考え合わせたりしながらどのように活動するか考えている。</p> <p>自分たちの活動の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴について感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。</p>	<p>つくりだす喜びを味わい、主体的に試したり、表現したりする学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>つくりだす喜びを味わい、主体的に鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。</p>

本題材で重点をおく表出要素に関する予想

児童の「こうしたい」を引き出すことのできる活動の設定とともに、児童の試行錯誤する力を高めるとい教師の「ねらい」を踏まえ、次の2点に基づき児童の姿を予想した。

「表したいことを見いだす」

- ・ 用いる材料を限定することで試行錯誤を促したり、既習事項を生かすことのできる活動を設定したりすることで、児童が主題を見だし、「これがいい」「こうしたい」と主体的に学ぶことにつながるのではないか。

「友達との協力」

- ・ 児童から出た技能的気付きや発想的な面白さを必要に応じて共有することで、活動に新たな価値を見だし、更なる創作意欲が生まれ、主体的に学ぶことにつながるのではないか。
- ・ 表したものを一箇所に集めて鑑賞することにより、児童同士が互いに協働し、更なる創作意欲が生まれ、主体的に学ぶことにつながるのではないか。

イ 題材の指導計画及び研究主題に対する手だて（全2時間）

時	◎学習内容 ○予想される児童の姿	研究主題に対する手だて
第1時 第2時 (本時)	◎ 段ボールを用いた既習の活動を生かしたり、新たに段ボールのよさを見付けたりして思い付いたものを表す。	視点1 題材の提示 導入時に、児童とのやり取りを大切にしながら既習事項や本時の活動について確認し、児童と共にめあてをつくる。
めあて 段ボールの使い方を工夫してすてきな世界をつくろう。		
	○ 切り込みを入れたり、穴を空けて差し込んだり等、接着方法や組み合わせ方を試行錯誤する姿 ○ 児童が自ら目標に向かって、主体的に自己決定を重ねる姿 ◎ 表したものを展示し互いに鑑賞する。 ○ 展示スペースに作品を置く際に生じる児童同士の自然に鑑賞したり、協働して飾ったりする姿 ○ 友達の表現のよさに気付き、自身の表現にも生かす姿 ○ 学んだことを振り返り、本時の活動の価値や意味を感じたり、次の活動に生かしたりする姿	視点1 題材の提示 児童の言葉を引き出しながら既習事項を確認し、段ボールカッター、カッター、はさみを用いた表し方の工夫や安全な使用のための留意点を伝える。 視点2 環境づくり 作品を通した児童同士の関わりを促すため、展示スペースを設け、表したものを一箇所に集めて飾ることができるようにする。 視点3 学びの過程の価値付け 活動中、随時段ボールの使い方について技能的な気付きや発想の面白さを教師が写真に撮り、必要に応じて共有する。 活動の終末に、児童が特に工夫したり、全体に共有したいと考えたりしている箇所をICT 機器を活用し写真に撮るよう児童に伝えるとともに、活動の振り返りを記入する時間をとる。振り返りの視点（できたこと、感想、次回に生かしたいこと）を明確にし、本時で何を学んだか、児童自身が確認できるようにする。

ウ 実際の授業で見られた児童の様子

表出要素 (○は本授業の重点)	児童に見られた様子・表したもの
1 行為	・ 何度も段ボール箱の中に入ったり、身に付けたりする。
2 愛着	・ 自分がつくったものに名前を付けて活動に取り組む。
3 世界に入り込む	・ 温泉やトンネルなど段ボールの中に入りイメージを広げる。 ・ 自分が入って運転できる車をつくり、運転手になりきる。
4 ひらめき	・ 段ボールに切り込みを入れてつなげる。 ・ 段ボールに折り目を付け、表現に合うよう変形する。
5 日常との関連	・ テレビの天気予報、車や家など、日常生活の中で身の回りに見られるものや、自分が好きなものから発想を広げる。
○6 表したいことを見いだす	・ 段ボールの中に入る活動を楽しみながら、温泉やトンネルなどを思い付き、表したいことを見いだす。
7 他者とのかかわり	・ 休み時間にできた作品を他学級の友達にも見せる。 ・ みんなが楽しめる迷路のゲームを発想し、つくる。
○8 友達との協力	・ 車をつくっている児童と関わりながら、駐車できる場所をつくることを思い付き、一緒につくる。 ・ トンネルをつくる児童と関わりながら、トンネルを抜けると見えるモニュメントをつくる。
9 こだわり	・ 自分の好きな車を表すために、飾って楽しむだけでなく、自分が乗って動かせる乗り物をつくる。

エ 検証授業Ⅰの成果と課題

成果	課題
<p><u>視点1 題材の提示</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 粘着テープの使用を最低限にするなど、用具を制限したことで段ボールを試行錯誤しながら工夫して表すことができた。 ・ 児童とやり取りしながら、既習事項等を確認したことで、本時において「○○ができそう」との期待感を高めることができた。 <p><u>視点2 環境づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表したものを一箇所に集約して鑑賞を設定したことで、互いの表現のよさに気づき、作品を介して新たな発想につながるきっかけをつくることができた。 ・ 個人や複数など、児童自身が選択し、表したいものに合わせて活動することができた。 <p><u>視点3 学びの過程の価値付け</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学びを振り返り、本時の活動の価値や意味から次回の活動意欲につなぐことができた。 	<p><u>視点1 題材の提示</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 用具をあえて制限することにより、技能や発想力を伸ばしたいという教師の「ねらい」に対し、児童は既習の経験を生かし、表現に合わせて用具を選択したがっていた。その結果、児童の「こうしたい」と教師の「ねらい」とが一致せず、児童の実態と教師の意識に差が生じた。 <p><u>視点2 環境づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本題材では用意していない材料で、既習の活動から使用したい用具や材料を思い付いている児童がいた。児童の表したいものに合わせた材料や用具の提示を再検討するとともに、材料や用具を制限する際は教師の意図を丁寧に伝える必要がある。 <p><u>視点3 学びの過程の価値付け</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞の際に表したものに着目しすぎて、活動する過程で味わう「体験しながらイメージを広げること」のよさを十分に実感させることができなかった。

オ 検証授業Ⅰの成果と課題を踏まえた検証授業Ⅱへの改善策

児童の「こうしたい」と教師の「ねらい」との差を解消するため、本時で達成する「ねらい」を明確にし、児童と共有するとともに、児童が活動への必然性を感じることでできる題材を設定する。

(2) 検証授業Ⅱ

ア 授業の概要等

授業の概要と研究主題との関連
<p>低学年における「こうしたい」が生まれる要素のひとつに、自己の作品や表現への「愛着」があると考えた。「愛着」を十分に育んだ後、梱包材でつくった「友達」のお出かけの様子を考えて作品づくりをする。「友達」がお出かけをする話を考えながら、切った紙をつなげたり吊るしたり折ったり立たせたりし、自分の表したいものを見つけ、工夫して表していく。はさみでどんどん切る心地よさを味わうとともに、できた形や色の面白さを感じ取る力や、形や色の組み合わせを工夫する力を育てたいと考え、授業を組み立てた。</p>

題材名	「お出かけ♡ラブ」 A表現 (1) イ (2) イ、B鑑賞 (1) ア、共通事項 (1) ア、イ		
対象	小学校第2学年		
題材の目標	<p>○「知識及び技能」に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 思い付いたものに合わせてはさみで紙を切ったり、できた形や色をつなげたり吊るしたり立たせたりして表したりするときの感覚や行為を通して、様々な形や色、その組み合わせ方などに気付く。 紙やテープに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。 <p>○「思考力、判断力、表現力等」に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 形や色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもちながらはさみで紙を切り、できた形や色から表したいことを見付け、切った紙をつなげたり吊るしたり立たせたりして、どのように表すかについて考える。 様々な形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 <p>○「学びに向かう力、人間性等」に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> はさみで紙を切ることを楽しみながら、できた形や色をつなげたり吊るしたり立たせたりして表す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色に関わり楽しい生活を創造しようとする。 		
評価 規準	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
	<p>はさみで紙を切ったり、できた形や色をつなげたり吊るしたり立たせたりして表したりするときの感覚や行為を通して、様々な形や色、その組み合わせ方などに気付いている。</p> <p>紙やテープに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。</p>	<p>形や色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもちながらはさみで紙を切り、できた形や色から表したいことを見付け、切った紙をつなげたり吊るしたり立たせたりして、どのように表すかについて考えている。</p> <p>様々な形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>つくりだす喜びを味わい楽しくはさみで紙をどんどん切って、できた形や色から表す学習に取り組もうとしている。</p>

本題材で重点をおく表出要素に関する予想

児童の発達の段階等の実態と、はさみで紙を切る心地よさを存分に味わえるようにするという教師の「ねらい」を踏まえ、次の3点に基づき児童の姿を予想した。

○「愛着」

本題材では、はじめに自己を投影することのできる「友達」を梱包材でつくる。その「友達」にどれだけの「愛着」をもつことができるかがこの題材の核となるのではないだろうか。

○「行為」

「愛着」を十分に育んだ後、「友達」のお出かけを考えて作品づくりをする。お出かけをする話を考えながら、切った紙をつなげたり吊るしたり折ったり立たせたりし、自分の表したいものを見付け、工夫して表していく。はさみでどんどん切る心地よさを味わうとともに、できた形や色の面白さを感じ取る力や、形や色の組み合わせを工夫する力が育ち、「これがいい」「こうしたい」と主体的に学ぶことにつながるのではないか。

○「友達との協力」

切った画用紙をつなげていく過程で自然と友達の作品とつながる場にする。一人でも友達でも活動をしてよいことで、それぞれの「こうしたい」を大切に、安心して主体的に授業に臨むことができるのではないだろうか。

イ 題材の指導計画及び研究主題に対する手だて（全4時間）

時	◎学習内容 ○予想される児童の姿	研究主題に対する手だて
第1時 第2時	◎ 「友達（登場人物）」をつくり、遊ぶ。 ○ つくった「友達」で友達とごっこ遊びをしたり手をつながせたりする姿	視点1 題材の提示 「愛着」の形成 ・ カラーペンで緩衝材に絵や模様をかき、自分だけの「友達」を生み出すことができるようにする。 ・ つくった「友達」と遊ぶ時間を多くとる。
第3時 第4時 (本時)	◎ 前時で作った「友達」とお話ししながら、表したいものを考え、色画用紙を選び工夫して表す。 めあて 「○○ちゃん」とのお出かけをくふうしてつくろう。 ○ 「友達」に話しかけながら、長細く切った紙をつなげて、道に見立ててお出かけをする姿 ○ 友達と協力して机と机の間に橋をつくる姿 ○ 紙を立てて遊具などをつくる姿 ○ 友達の表現のよさに気付き、作品の中に入り込んで楽しむ姿	視点1 題材の提示 材料や技能の焦点化 ・ 材料を「選ぶ」、表す方法として「切る」「つなげる」「吊るす」「折る」「立てる」を提示し、できるだけ簡潔に伝える。 視点2 環境づくり 自然発生のグループ活動 ・ 児童の思いに合わせて、個人でも複数でも活動してよいこととする。 ・ 自然と友達の作品とつながることができる場にする。 視点3 学びの過程の価値付け 友達同士で価値付けることのできる二段階の鑑賞 ① 「友達」を動かし、遊びながら鑑賞する。 ② お気に入りの場所に「友達」のポーズを考えて置き、互いのお気に入りの場所を友達同士で伝え合うことができるようにする。その際、教師も見て回り、児童に声を掛け価値付ける。

ウ 実際の授業で見られた児童の様子

表出要素 (○は本授業の重点)	児童に見られた様子・表したもの
○1 行為	<ul style="list-style-type: none"> 「友達」をつくり、ごっこ遊びをする。 画用紙を切り、それらをつなげる、吊るす、折る、立てる。
○2 愛着	<ul style="list-style-type: none"> 「友達」をつくり名前を付け、ごっこ遊びをする。「友達」の仲間をつくる。「友達」の乗り物をつくって遊ぶ。お話を考えながら紙で場所や道などをつくる。紙でつくったものに出かけて遊ぶ。
3 世界に入り込む	<ul style="list-style-type: none"> 紙でつくった「お出かけ」の場所や道などに「友達」を連れていき、「友達」の目線で「ごっこ遊び」をしながら作品を楽しむ。
4 ひらめき	<ul style="list-style-type: none"> 「友達」のためのお出かけを考え、思い付いたものをつくる。 画用紙を切り、それらをつなげる、吊るす、折る、立てる、という行為をしながら、お話を考えてつくる。
5 日常との関連	<ul style="list-style-type: none"> 今までの生活の中の経験を活かし、「お出かけ」を考え、つくり、生み出す。(ブランコ・立体交差の道路・ジャングルなど)
6 表したいことを見いだす	<ul style="list-style-type: none"> 友達と道をつなげたり、お出かけする場所について話したりして、つくりながら表したいことを考えて、つくり進める。
7 他者とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ごっこ遊びをしながら自分や友達の作品を味わう。
○8 友達との協力	<ul style="list-style-type: none"> 道や橋などを友達とつなげて協力してつくる。 滑り台を友達とつくり、滑らせて遊ぶ。
9 こだわり	<ul style="list-style-type: none"> 楽しかったキャンプの思い出からテントや焚火などをつくる。 公園の滑り台が大好きで滑り台の手すりなどまで細かくつくる。

エ 検証授業Ⅱの成果と課題

成果	課題
<p><u>視点1 題材の提示</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 作品に対して「愛着」を形成する時間は、活動へのイメージを広げ、「これがいい」「こうしたい」という気持ちを高めるために有効だった。 導入時に「切る」、「つなげる」など児童にとって取り組みやすい表し方を演示することにより、児童が主体的に試したり考えたりしていた。 <p><u>視点2 環境づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 個人や複数など、自分の思いに合わせた活動の設定は、安心感の醸成につながった。 机やパーティションを利用できるようにしたことで、普段の図工室とは異なる期待感を醸成し、活動への意欲を高めることができた。 <p><u>視点3 学びの過程の価値付け</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 遊びながら鑑賞することで、友達と互いの作品のよさを味わい価値付け合うことができた。 教師から児童への声掛けは、児童の「これがいい」「こうしたい」という思いを高めることにつながった。 	<p><u>視点1 題材の提示</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の導入時における、教師の演示に影響を受け、発想が制限されてしまった部分もあった。演示の内容や順番は、これまでに以上に検討し、精査する必要がある。 <p><u>視点2 環境づくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 活動が活発になるにつれ、机と机の間が作品でふさがれる状態となった。児童が活動する場所と材料を置く場所との動線などに留意する必要がある。 <p><u>視点3 学びの過程の価値付け</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 本時では、鑑賞を通した児童同士のやり取りから互いの活動のよさを認め、価値付けることを意図して鑑賞の時間を設定した。しかし、もっと活動したいという児童の思いとのずれが生じる結果となった。

オ 検証授業Ⅱの成果と課題を踏まえた検証授業Ⅲへの改善策

児童の「もっと活動したい」という思いを反映した活動時間の設定が必要だった。今後は活動時間を適切に確保するとともに、教師が鑑賞を設定する意図を児童に伝え、学びの過程の価値を児童が実感できるようにすることで、さらに主体的な「こうしたい」を促す。

(3) 検証授業Ⅲ

ア 授業の概要等

授業の概要と研究主題との関連
<p>研究員所属校の実践において、中学年の児童では材料の「動き」に着目し、「これがいい」「こうしたい」との思いをもつ様子が見られた。そこで、本題材ではビー玉を転がして遊ぶことのできる工作をつくる。本題材では「これがいい」「こうしたい」が生まれるときの表出要素のうち、「愛着」「行為」「ひらめき」に着目する。ビー玉に「コロりん」と名付けることにより愛着をもてるようにするとともに、転がすという行為から、表現へのひらめきを引き出せるようにする。また、本題材では、活動における教師の「ねらい」と児童の「これがいい」「こうしたい」とのずれを解消するため、題材の導入時に教師と児童との対話によるやり取りを行い、本題材で働かせる見方・考え方について互いに共有する時間を設定した。</p>

題材名	「コロりんの大ぼうけん」 A表現(1)イ(2)イ、B鑑賞(1)ア、共通事項(1)ア、イ		
対象	小学校第4学年		
題材の目標	<p>○「知識及び技能」に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通してビー玉を転がして遊ぶ工作をつくる活動の中で、ビー玉の動きや様々な材料の造形的な特徴を理解する。 木や釘などの材料や用具などを適切に扱うとともに、かなづち、ペンチ、はさみ、アクリル絵の具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。 <p>○「思考力、判断力、表現力等」に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> どんな冒険にしようか想像したことから、表したいことを見付け、木や釘など様々な材料の組合せや絵の具などを生かしながら、どのように表すかについて考える。 自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、様々な表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。 木や釘、様々な材料や絵の具などを組み合わせてできる形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつ。 <p>○「学びに向かう力、人間性等」に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ビー玉を転がして遊ぶ工作をつくりたり鑑賞したりする学習活動にすすんで取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。 		
評価規準	<p>ア 知識・技能</p> <p>自分の感覚や行為を通してビー玉の動きや様々な材料の造形的な特徴を理解している。</p> <p>木や釘などの材料や用具などを適切に扱うとともに、かなづち、ペンチ、はさみ、アクリル絵の具などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p>イ 思考・判断・表現</p> <p>材料の形や色などの感じを基に自分のイメージをもち、どんな冒険にしようか想像したことから表したいことを見付け、材料の組合せや絵の具などを生かしながら、どのように表すかを考えている。</p> <p>形や色などの感じを基に、自分のイメージをもち、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、様々な表し方などについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>ウ 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>つくりだす喜びを味わい、すすんでビー玉を転がして遊ぶ工作に表す学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、様々な表し方などについて感じ取ったり考えたりする学習活動にすすんで取り組もうとしている。</p>

本題材で重点をおく表出要素に関する予想

検証授業Ⅰ及び検証授業Ⅱで効果的だった手だてを基に、児童の発想力を高められるようにするという教師の「ねらい」を踏まえ、次の3点に基づき児童の姿を予想した。

○「愛着」

ビー玉に「コロりん」と名付け、単に転がすための材料ではなく、愛着をもって活動できるようにするとともに、「コロりん」の視点から冒険のイメージを広げ、主体的に学ぶことができるのではないかと。

○「行為」

「ビー玉を転がす」という行為を繰り返す過程で、動きに着目することで、転がる速さや向きの変化、ビー玉が他の材料にぶつかったときの音などの面白さに気づき、「もっと楽しめるコースをつくりたい」「ビー玉と釘がぶつかるときの音を生かした作品にしたい」などの「これがいい」「こうしたい」という思いをもつのではないかと。

○「ひらめき」

「コロりんが冒険する」という設定を児童と共有することにより、冒険する場所のイメージを広げるとともに、自分のイメージに合わせてビー玉の転がし方や材料の組み合わせ方を思い付き、「これがいい」「こうしたい」という思いをもち表現を工夫することができるのではないかと。

イ 題材の指導計画及び研究主題に対する手だて（全8時間）

時	◎学習内容 ○予想される児童の姿	研究主題に対する手だて
第1時 ～ 第4時	ー前時までの活動ー ◎ ビー玉の「コロりん」が冒険する様子をイメージしながら、板や釘などの材料を用いて、ビー玉を転がすゲームをつくることを知る。 ◎ 板材を切ったり組み合わせたりして土台をつくる。 ◎ 冒険のイメージを広げながら、土台の板に色を塗ったり、釘を打ったりするなどして、コロりんが冒険する様子を表現する。	
第5時 第6時 (本時)	◎ 様々な材料や用具を工夫しながら、「ぼうけん」のイメージを広げて、ビー玉を転がすゲームをつくる。 ◎ 他の児童の作品を鑑賞して「冒険」のイメージや工夫、ビー玉の動きなどを捉え、自身の作品に生かし、イメージをさらに広げる姿 ◎ 教師の価値付けにより、改めて自己の作品や活動の意味や価値について考える姿 ◎ 作品の木や釘、様々な材料や絵の具などを組み合わせてできる形や色などの感じから様々な表し方などについて感じ取っ	研究主題に対する手だて めあて コロりんのぼうけんの動きを考えたり、自分たちの作品のいいところを見付けたりしよう。 視点1 題材の提示 導入時に、児童の作品でビー玉を転がして遊んでいる動画を紹介する。児童がどのような見方・考え方を働かせたのか、児童の言葉を引き出し全体で共有する。 視点3 学びの過程の価値付け 児童の作品や活動から工夫やイメージの広がりが見られた場合、カメラ付き ICT 機器で撮影するとともに、どのようなことを考えて表したのか、これからどのようにしていくのか等、児童に声掛けする。 視点2 環境づくり 様々な材料を用意するが、一度には出さず、児童の必要感に応じて徐々に提示し、児童の試行錯誤を促す。材料は真ん中のテーブルに、用具は教卓寄りのテーブルに整理して並べ、児童が選択しやすいようにする。

	たり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる姿 ○ 本時を通して学んだことを振り返り活動の意味や価値をさらに深める姿	視点3 学びの過程の価値付け 鑑賞活動である「コロりんタイム」を設定する。友達の作品で遊び、全体でよさを共有するため、数名の児童に発言を促す。活動の終わりに、授業で頑張った点やその理由、工夫した点等を問い掛け全体で共有する。
--	--	--

ウ 実際の授業で見られた児童の様子

表出要素 (○は本授業の重点)	児童に見られた様子・表したもの
○1 行為	<ul style="list-style-type: none"> 釘を繰り返して打ったり、ビー玉を転がしたりしながら、釘に当たって転がり方が変化する様子を捉えている姿
○2 愛着	<ul style="list-style-type: none"> 題材の導入時にビー玉に顔を描き、擦れて消えた部分に描き足したり、ビー玉に自分の考えた名前を付けたりして大切に扱う姿。
3 世界に入り込む	<ul style="list-style-type: none"> 空、海、宇宙等、冒険のテーマを表し、自分のイメージする世界を旅するように、ビー玉を持って動かす姿
○4 ひらめき	<ul style="list-style-type: none"> ビー玉の動きや材料の組み合わせから、ビー玉が「ワープする」場所を思い付き、釘や輪ゴムの使い方を工夫して活動する姿
5 日常との関連	<ul style="list-style-type: none"> コロりんの冒険の舞台として、自分の好きなお菓子や野菜をゴールに据えて、自分の日常との関わりから表現を思い付く姿
6 表したいことを見いだす	<ul style="list-style-type: none"> 「空から海に冒険する」など自分でテーマを決めて、色の塗り方や板の組み合わせ方を考えている姿
7 他者とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作品で遊んでもらえるよう友達に声を掛け、表し方の工夫を説明しながら、「ここに○○をつくりたい」と伝えている姿
8 友達との協力	<ul style="list-style-type: none"> 友達が波段ボールで坂道をつくっている様子からヒントを得て、自分の作品に取り入れている姿
9 こだわり	<ul style="list-style-type: none"> 釘を打ち込んでコースをつくることに一貫して取り組み、板の上に釘で渦巻状の模様を表現する姿

エ 検証授業Ⅲの成果と課題

成果	課題
視点1 題材の提示 <ul style="list-style-type: none"> 導入時に教師が、表現の工夫について全体で共有したことで、児童同士が互いの工夫に着目し、自分の作品に生かす姿が見られた。 カメラを用いて、コロりん（ビー玉）の視線から冒険する様子を捉えたことで、鑑賞や表現する際の視点を共有することができた。 視点2 環境づくり <ul style="list-style-type: none"> 児童が材料を選択しやすいように、材料の置き方を工夫したことで、一人一人の児童の「これがいい」「こうしたい」を実現しやすい場の工夫を行うことができた。 視点3 学びの過程の価値付け <ul style="list-style-type: none"> 振り返りの際に、互いの作品のよさを共有する時間を設定したことで、児童同士の価値付けを促進することができた。 	視点1 題材の提示 <ul style="list-style-type: none"> 「冒険」のイメージを広げる手だてが不十分だったため、一人一人の児童のイメージについて問い掛けながら広げる必要があった。 釘の打ち方や波段ボール等についての表し方の工夫を一層引き出すためには、ビー玉の「動き」に焦点を当てる必要があった。 視点2 環境づくり <ul style="list-style-type: none"> 板の厚みや釘の太さ等が児童の発達の段階に合っていない様子が見受けられ、技能的にやや困難な活動であった。今後は、児童の実態に合わせた材料や用具をより吟味する。 視点3 学びの過程の価値付け <ul style="list-style-type: none"> 児童の活動の状況に応じた価値付けが必要だった。本時では、活動時に板の接合等の工夫が見られたため、教師から積極的に価値付け全体に広げる工夫を行ってもよかった。

オ 検証授業Ⅲの成果と課題を踏まえた改善策

児童の「これがいい」「こうしたい」をより実現へと近付けるために、材料や用具を吟味するとともに、児童の実態に合わせて段階的に活動を設定する。

Ⅶ 研究のまとめ

以上のとおり調査研究と検証授業を実施し、題材の提示、環境づくり、学びの過程の価値付け等を工夫しながら、授業改善に取り組んだ。本研究の成果と課題を以下にまとめる。

1 成果

本研究では、授業づくりの視点を軸に授業を設計し、実施したことにより、児童の「これがいい」「こうしたい」という思いを引き出すことができた。具体的には、検証授業において以下のような児童の姿を捉えることができた。

- ・ 「〇〇に合う材料を探したい。」「いいこと思い付いた。」など、自分の表したい活動に合う用具や材料を選んだり、作品がよりよくなるように試行錯誤したりすることができた。
- ・ 教師が児童と共にめあてについて確認し、活動のイメージを共有することにより、児童が活動への意欲をもち、見通しをもちながら安心して活動に没頭することができた。
- ・ 材料や自分の作品に愛着をもてるよう意図して活動を設定したことにより、児童の中でストーリーや世界観のイメージが広がり、児童同士の鑑賞や対話が促進され、自他の表現に対する価値付けが自然発生的に行われた。

2 課題

主な課題は、次のとおりである。

- ・ 教師は、児童が試行錯誤できることを意図して授業を設計したが、本時の活動のねらいを十分に共有できていない、材料や用具が児童の実態に合っていないなどの理由から、教師が意図したほど活動が充実しない場面があった。児童が「これがいい」「こうしたい」という思いをもち、実現できるようにするには、児童が「〇〇してみたい」と期待を抱くことのできる題材を設定するとともに、児童の実態に合わせためあて、材料・用具の設定などに取り組む必要がある。
- ・ 学びの過程の価値付けは、題材の目標に沿って教師が熟考する必要がある。「友達と活動することで、以前には思い付かなかった工夫を考えることができた。」「〇〇の工夫をすることで、より自分のイメージに近付けることができた。」など、児童が学びの過程で実感したことを、教師が児童の視点に立ち、共感的に受け止めることが重要である。その上で、教師のねらいに沿った児童の姿を捉え、価値付け、活動において発揮した資質・能力を児童自身が実感できるようにする。今後は、題材や授業の導入で、目標に沿った表現や鑑賞の視点を児童が理解し活動できるよう指導するとともに、表現や鑑賞の視点に沿った振り返りを設定するなど、意図的な授業設計を行う。

上記の成果と課題を踏まえ、今後も指導の改善に取り組む。

令和7年度 教育研究員名簿

小学校・図画工作

学 校 名	職 名	氏 名
文京区立青柳小学校	主任教諭	上田篤生
目黒区立宮前小学校	主任教諭	戸邊安代
大田区立嶺町小学校	主任教諭	吉田しのぶ
世田谷区立瀬田小学校	主任教諭	◎中根誠一
渋谷区立西原小学校	主任教諭	三浦麻記
八王子市立第一小学校	主任教諭	森 俊輔
立川市立第三小学校	主任教諭	内村弘毅
清瀬市立清瀬小学校	主任教諭	松本杏奈
稲城市立向陽台小学校	主任教諭	山本ゆり
稲城市立長峰小学校	主任教諭	坂部 翔

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部授業力向上課

指導主事 古賀 愛

令和7年度
教育研究員研究報告書
小学校・図画工作

令和8年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6869